

令和5年度病虫害発生予察予報第2号（令和5年5月）

令和5年5月2日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稻	イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	<u>やや多(県下全域)</u> <u>多(県下全域)</u>
カンキツ類	黒点病 かいよう病 カメムシ類	<u>やや多(県下全域)</u> <u>やや多(県下全域)</u> <u>やや多(東、中央、中西)</u> 、やや少(西)
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(県下全域)</u> <u>やや多(県下全域)</u> <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央、西)</u> <u>多(中央)</u> 、少(中西、西) <u>やや多(中西、西)</u> 、やや少(中央) <u>多(中央、西)</u> 、 <u>やや多(中西)</u>
促成ナス	灰色かび病 黒枯病 すすかび病 タバココナジラミ	<u>多(東)</u> 、平年並(中央)、やや少(西) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(東、中央)</u> <u>多(西)</u> 、平年並(東、中央) <u>多(西)</u> 、平年並(中央)、やや少(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ コナカイガラムシ類	<u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央) <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央、中西)</u> <u>多(東、中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 、少(東、中西) 平年並(県下全域) <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央、中西)</u>
促成トマト	灰色かび病 葉かび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台 4月27日発表)

4月29日から5月28日までの天候見通し

＜予想される向こう1か月の天候＞

向こう1か月の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため高いでしょう。特に、期間の前半はかなり高くなる可能性があります。期間の前半を中心に、気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並、高い確率とも40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並の確率40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	20	30	50	
		降水量	20	40	40	
		日照時間	40	30	30	

＜気温経過の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	20	50	30	
2週目		10	30	60	
3～4週目		30	40	30	

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：4月29日(土)～5月28日(日)

1週目：4月29日(土)～5月5日(金)

2週目：5月6日(土)～5月12日(金)

3～4週目：5月13日(土)～5月26日(金)

II 病虫害発生予想

1 水稻の病虫害

1)イネミズゾウムシ

予 想 発生量：やや多(県下全域)

根 拠

(1) 南国市の防除適期決定ほでは4月中旬から、四万十市では4月下旬から発生が見られている。5月の気温は高いと予想されているため、今後、活動が活発になると考えられる。

対 策

(1) 箱処理剤を施用していないほ場で発生が多く見られる場合には本田防除を行う。

2)スクミリンゴガイ

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 昨年の発生面積は平年よりも多いかやや多かったこと、5月の気温は平年よりも高いと予想されているため、成貝の活動が活発になると考えられることから、発生は多くなると予想される。

対 策

- (1) 水中で食害するので、発生ほ場では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理を行う。ただし、薬剤処理時や低温時には湛水状態とする。
- (2) 水路からの侵入を防止するため、取水口や排水口に金網等(約5mm目合)を設置するとともに、発生した貝と卵塊を捕殺する。
- (3) 貝の発生が多い場合には薬剤の本田施用を実施する。

2 カンキツ類の病害虫

1) 黒点病

予 想 発生量：やや多(県下全域)

根 拠

- (1) 前作の巡回調査では、温州ミカン、中晩柑類ともに平年並の発生であったが、冬季の降雪による枝折れ等により伝染源となる枯枝の発生は多いと考えられる。
- (2) 5月の降水量は平年並か多いと予想されており、発生は多くなると考えられる。

対 策

- (1) 感染は、枯枝上に形成された胞子が降雨により分散することにより起こるので、落弁期に薬剤散布を実施し、以後累積雨量が約250mmに達した時点で次の薬剤散布を実施する。

2) かいよう病

予 想 発生量：やや多(県下全域)

根 拠

- (1) 昨秋、台風の影響で中晩柑類での発生が平年よりも多かったことから、第1次伝染源となる越冬病斑も多かったと考えられる。
- (2) 本病に対して感受性が高い文旦の着花量は平年並～やや少ないことから、主な感染部位である春葉の発生はやや多くなると予想される。

対 策

- (1) 本病は前年の夏秋梢で越冬し当年の伝染源となるので、罹病した夏秋梢は剪定、除去する。また、銅剤等の散布による予防に努める。

3) カメムシ類

予 想 発生量：やや多(東部、中央部、中西部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 県内4地点(安芸市、香美市、須崎市、四万十市)で実施しているフェロモントラップ調査では、県東部から中西部にかけて、4月上旬より誘殺が確認されている。
- (2) 昨年は県下全域で高温期の発生量が多く(6月9日および7月14日：注意報)、東部、中央部、中西部では昨年9月の発生量も平年と比べ多かったため、越冬量も多いものと考えられる。

対 策

- (1) 花、幼果を吸汁されると結実不良、落果の被害がでるため、ほ場での発生に注意し、飛来を確認したら薬剤防除を行う。

3 促成キュウリの病害虫

1)べと病

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年よりも多く、西部でやや多く、中西部で平年並であった。発病程度は、中央部と西部で平年よりも高く、中西部でやや高かった。
- (2) 5月の降水量は平年並か多いと予想されているため、病勢は更に進展し、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2)うどんこ病

予 想 発生量：やや多(県下全域)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年並、発病程度は中央部、中西部で平年並、西部では低かった。
- (2) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。5月の気温は平年より高いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3)黄化えそ病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部、西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部で平年よりも多く、中央部、西部で平年並であった。発病程度は西部で平年よりも高く、中西部で平年並、中央部では低かった。
- (2) 既発ほ場を中心に発病株が増加している。また、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生は、県下全域で確認されている。
- (3) 気温の上昇にともない、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度が高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。罹病株は早期に除去し、土中に埋めるなどの処分を行うとともに、栽培の終了時にはハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底し、保毒虫の分散を防ぐ。

4)退緑黄化病

予 想 発生量：多(中央部)、少(中西部、西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年より高かった。
- (2) 媒介虫であるタバココナジラミの発生が県下全域で確認されていることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。栽培の終了時には保毒虫の分散を防ぐため、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中西部、西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部と西部で平年並、中央部で平年よりも少なかった。発生程度は西部で平年よりも高く、中西部で平年並、中央部では低かった
- (2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、栽培の終了時には保毒虫の分散を防ぐため、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや多(中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部でやや多く、中西部では平年並であった。発生程度は西部で平年よりも高く、中央部でやや高く、中西部で平年並であった。
- (2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に行う。また、栽培の終了時には保毒虫の分散を防ぐため、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

4 促成ナスの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生量：多(東部)、平年並(中央部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県東部と中央部で発生が見られた。発生面積は東部で平年よりも多く、中央部ではやや少なかった。発病程度は東部で平年よりも高く、中央部では平年並であった。
- (2) 5月の降水量は平年並か多いと予想されているため、ハウス内湿度が高くなりやすいと考えられることから、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(東部、中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、東部と中央部で平年並であった。発病程度は西部で平年よりも高く、東部でやや高く、中央部では低かった。東部では果実への被害(水疱症)の発生も確認された。
- (2) 5月の降水量は、平年並か多いと予想されているため病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病した茎葉や果実は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すすかび病

予 想 発生量：多(西部)、平年並(東部、中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、その他の地域ではやや少なかった。発病程度は東部で平年よりもやや高く、西部で平年並、中央部では低かった。
- (2) 5月の降水量は、平年並か多いと予想されているため病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(西部)、平年並(中央部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部で平年並、東部でやや少なかった。発生程度は西部で平年よりも高く、中央部で平年並、東部で低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになると考えられるが、タバコカスミカメなどの天敵が定着しているため、現在の発生状況が継続すると予想される。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に行う。

5 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多(東部)、やや多(中西部)、平年並(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部で平年よりも多く、中西部で平年並、中央部でやや少なかった。発病程度は東部で平年よりも高く、中西部でやや高く、中央部で平年並であった。
- (2) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。5月の気温は平年より高いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多(東部)、やや多(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部で平年よりも多く、中央部、中西部で平年並であった。発病程度は東部と中央部で平年より高く、中西部でやや高かった。
- (2) 5月の降水量は、平年並か多いと予想されているため病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(東部、中西部)、やや多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部で平年よりも多く、中西部でやや多く、中央部では平年並であった。発病程度は東部で平年よりもやや高く、中央部と中西部では低かった。
- (2) 5月の降水量は、平年並か多いと予想されているため病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中央部)、少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、中西部で少なかった。発生程度は中央部で平年よりも高く、中西部で低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになると考えられるが、タバコカスミカメなどの天敵が定着しているため、現在の発生状況が継続すると予想される。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年並であった。発生程度は中西部で平年よりも高く、東部と中央部でやや低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになると考えられるが、タバコカスミカメなどの天敵が定着しているため、現在の発生状況が継続すると予想される。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に行う。

6) コナカイガラムシ類

予 想 発生量：多（東部）、やや多（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部で平年よりも多く、その他の地域は平年並であった。発生程度は東部で平年よりも高く、中西部で平年並、中央部ではやや低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、早期発見に努め、捕殺する。低密度時の防除を徹底する。雑草にも寄生するので、除草を徹底する。

6 促成トマトの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度も高かった。被害は果実だけでなく、茎葉で発病し枯死する事例も確認されている。
- (2) 5月の降水量は、平年並か多いと予想されているため病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 病原菌の侵入源となる花卉や枯葉はこまめに除去する。本病は傷口から感染しやすいので、曇雨天時の摘葉は避ける。

2) 葉かび病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年よりもやや多く、発病程度は平年並であった。
- (2) 5月の降水量は平年並か多いと予想されているため病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3)黄化葉巻病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年並、発病程度は平年よりも高かった。
- (2) 気温の上昇にともない本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖に好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株は可能な限りほ場外に持ち出し、土中に埋めるなどして処分する。

4)タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発生程度は低かった。
- (2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に行う。また、栽培終了時には保毒虫の分散を防ぐため、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)